

膵癌腹腔洗浄細胞診標準化ワーキンググループからの報告

委員長 平林 健一

この度、膵癌腹腔洗浄細胞診の取扱いと報告様式の標準化を目的に、日本臨床細胞学会と日本膵臓学会の合同ワーキンググループが 2022 年 8 月に発足いたしました。現在、膵癌取扱い規約第 8 版の改訂作業中で、第 8 版では腹腔洗浄細胞診陽性(CY1)が M1 となる予定です。しかしながら、腹腔洗浄細胞診の処理方法や報告様式が各施設で統一性がないこと、擬陽性(class III, class IV)の意義が不明であることが、規約改訂作業中で判明いたしました。そこで、細胞診に携わる病理医および細胞検査士の意見も積極的に取り入れるべく、本合同ワーキンググループが発足いたしました。本合同ワーキンググループにより腹腔洗浄細胞診の標準化や学術的な発信を目指します。現在、以下の検討事項を合同ワーキンググループで討議するため、準備を進めています。準備が整い次第、第一回ミーティングを行う予定です。

検討事項

1. 腹腔洗浄細胞診検体の処理方法・添加物の有無・染色方法等について各施設間の違いを明らかにし、検体取り扱い方法の標準化を目指す
2. 疑陽性(class III, class IV)の意義を明らかにする
3. 判別および報告様式の標準化規約への反映を行う